シラカシ
（園庭のあちこち）

つながり

自ら動き、感じ、楽しむ　～笑顔あふれる幼稚園～
～やさしく　かしこく　たくましく～

第 7 号
令和4年10月25日発行
山口大学教育学部附属幼稚園

副園長　大 森 洋 子

それぞれの思い　～運動会アンケートから～

ずいぶん前の話になってしまって恐縮ですが、運動会のことに触れたいと思います。というのも、先般実施した運動会アンケートに本当にたくさんのご意見をいただいたからです。今回は、WEB アンケートだったので自由記述が少ないだろうと思っていましたが、予想以上に多くの記入があって驚きました。ありがとうございます。さらに驚いたことに、「３学年が集まってできてよかった」「子どもたちが生き生きしていた」「良い経験になった」「楽しかった」等、肯定的に受け止めていただいた言葉が多い上に、私たち教職員へのねぎらいの言葉も多くあり、なんてすばらしい保護者の方々なのだろうととてもうれしくなった次第です。「保護者の方々が積極的に準備や片付けをされている姿が素晴らしい」という意見も多くありました。

運動会（他の活動でもそうですが）で私たちが一番大切に考えたことは、当たり前ですが、「子どもにとって楽しく、意味あるもの」であることです。その「意味」が、３歳児にとっては、日頃の遊びの延長で先生やお家の方と一緒に当日が楽しめることであり、４歳児にとっては、友達と一緒に楽しみながら取りくみ、その過程も含めて保護者の方に見てもらうことを喜ぶことであり、５歳児にとっては、友達と励まし合いながら自分の目標に向かって一生懸命取りくみ、その頑張りと成果を保護者の方にも見ていただくことであったと考えています。お子さんによって姿はいろいろでしたが、総じて見ると、どのお子さんもそのような姿を見せてくれたと思います。その姿をしっかり受け止めていただいたことに感謝いたします。

昨年までの学年ごとの運動会にもそれなりの利点はありましたが、私たちには、大きい組の姿を小さい組の子どもたちに見てほしい、各年齢の育ちの様子を保護者の方に見ていただきたいという思いもありました。その意味でも３年ぶりに一堂に会した運動会は意義あるものでした。特に年長さんにとっては、卒業までにみんなで一緒の運動会が経験できて本当に良かったと思っています。

家族の皆で見たかった、もっとたくさん見たかった、きょうだいも参加したかった・・・本当にそうだろうと思います。皆様の思いは重々承知しておりますが、ご家庭の事情に応じながら、それぞれが少しずつ工夫したり、我慢したり、譲り合ったり、協力したりして参加してくださったことに深く感謝いたします。

教生先生と一緒に登山遠足(10 月 12 日)：花組さんは、園から中腹の東屋までは星組さんに手をつないでもらって行きました。お兄さん・お姉さんが導いてくれるからこそ歩ける道のりでした。風組さんは、頑張ってずっと自分たちで行き、星組さんはさらに頂上を目指して 20 分以上山道を歩きました。それぞれにゴールに向かって頑張る姿が頼もしく、やり遂げた喜びを体中で感じていました。花・風はあまり園外保育を経験しないままでの遠足となりましたが、それぞれによい経験となりました。コロナ禍の保育を受けざるを得なかった子どもたちですが、３年の間には登山遠足の経験もしてほしいと思っていたので、３年ぶりの実現をうれしく思いました。

気候の良い、過ごしやすい時期で、戸外でのびのびと遊んでいます。走ったり、登ったり、挑戦したり、どの子ども も進んで体を動かすことを楽しんでいます。「ブランコに乗れるようになったよ」という花組さんの声も聞かれます。

花組も午後は大庭に行って遊びます。身のこなしが軽やかになりました。

風組：友達と一緒にさら粉つくり。根気よく楽しそうにやっています。

仲間で群れて遊ぶ星組さん。居場所だけでなく思いも一緒で、相談しています。

避難訓練（10/８）：附属小学校の避難訓練に合わせて（幼小は一緒に非常ベルが鳴るようになっています）、地震からの火災発生という想定で避難訓練を行いました（学校園では火災が単独で発生することは考えにくいので地震からの火災という想定にしています）。今回は、どの学年も前日までに事前指導を済ませ、当日は、「今から地震の音を流します」という放送から訓練を開始しました。地震の音が聞こえてくると、子どもたちは物が倒れてこない場所でダンゴムシのポーズ（頭を抱えて丸くなる）をとったり、机の下に潜ったりし、地震がおさまり「火事になりました」と放送が聞こえると、煙を吸わないよう口を押さえて、速やかに先生と一緒に大庭に避難しました。普段はそれぞれに遊んでいても、ここぞというときには集まることができる素晴らしい子どもたちでした。

地震のときは、慌てて飛び出したりせず、揺れがおさまるまでは物が倒れたり落ちたりしてこないところで身を守ることが大切であること、火災のときは、煙を吸わないようにすることが大切であること等の、基本的な身を守る行動を押さえるとともに、避難するときには、「**おはしもち**」（**お**さない、**は**しらない、**し**ゃべらない、**も**どらない、**ち**かよらない）の約束を確認しました。また、頭を守る行動のひとつとして、ヘルメットを被る経験もしました（ヘルメットは下のような袋に入れて各学級に置いています）。

子どもたちには、状況に怖じて、自分の身を守る行動ができるようになってほしいと願っています。ご家庭でも、機会を捉えて地震時や火災時にどのような行動をとるか確認していただけるとうれしいです。